

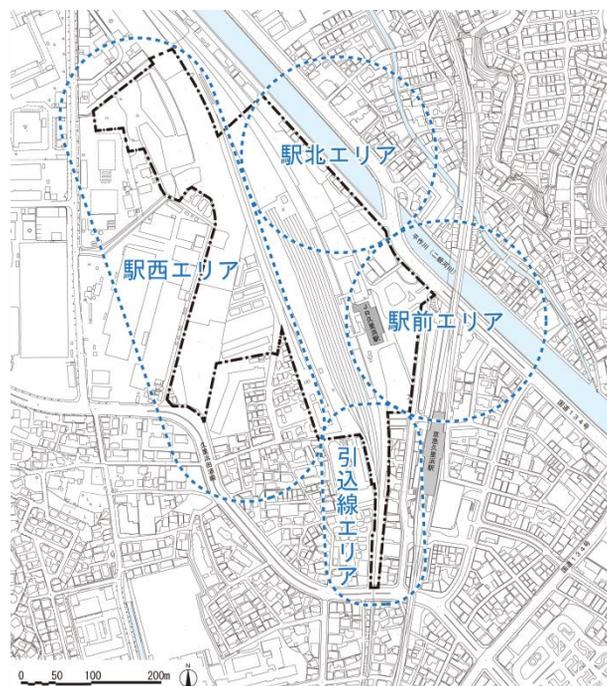
JR久里浜駅周辺地域の 土地利用方針

“交流・にぎわい・自然を感じるまち”を目指して

- 「横須賀市都市計画マスタープラン（平成28年改定）」において、JR久里浜駅周辺および京急久里浜駅周辺は「歴史と活力を生かして職・住・遊の交流をはぐくむまちづくり」の目標を掲げ、にぎわいの拠点となるようなまちの形成を目指しています。
- 当地域には「くりはま花の国」をはじめとする自然豊かな環境や近代日本の夜明けの地となった「ペリー公園」に代表される史跡、観光客や乗船客でにぎわうフェリーターミナルなどの地域資源があり、この地域資源の魅力を求めて、市内外から多くの来街者が訪れます。
- 今後、JR久里浜駅周辺地域にある未利用地などを活用することで、スポーツを核とした施設を整備するとともに、地域特性を生かした魅力づくりと暮らしやすい生活環境づくりを行い、これまで以上に地域の方々や来街者でにぎわう交流拠点となるまちづくりを推進していきます。
- この結果、将来、地域の方々や来街者がともに“交流・にぎわい・自然を感じるまち”を目指します。

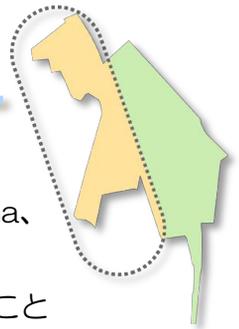
JR久里浜駅周辺地域の現状と課題

- 対象区域は、土地利用の特性から4つのエリアに分類することができます。
- JR久里浜駅及び京急久里浜駅の駅前広場は、交通広場やターミナルとしての機能を持っていますが、人が滞留するような広場はありません。
- また、久里浜地区の玄関口としての街並み景観が乏しく、JR久里浜駅と京急久里浜駅間に連続性が確保されていないため、にぎわいや活気に満ちた駅前空間となっていません。
- 鉄道用地により、JR久里浜駅を挟む東西地区は分断され、歩行者動線が不足し、まちとしての一体性や回遊性が確保されていません。
- 特に、佐原方面からJR久里浜駅や京急久里浜駅へのアクセスは、久里浜田浦線に限定されますが、八幡第一踏切で一時停止を要するため、スムーズにアクセスできません。



各エリアの方向性

駅西エリア スポーツを核とするまちづくりの実現を目指した一大拠点



【現状・課題】

- 駅西エリアの面積は約4.2haです。そのうち、くりはまみんなの公園が約2.2ha、国有地が約2.0ha（うち警察署建設予定地が約0.4ha）です。
- くりはまみんなの公園は自然や交流拠点に位置づけられており、自然を感じることでできる交流の場となっています。JR久里浜駅を挟む東西方向への歩行者動線が不足しているため、鉄道駅から徒歩でのアクセスは、久里浜田浦線を通る動線に限られています。

【方向性】

- 当地域におけるサッカー強豪校をはじめ、フットサル場や公式規模のサッカー場がある佐原2丁目公園など、サッカーが盛んであるという地域特性を生かし、サッカーができる運動公園の整備を検討し「スポーツ交流ゾーン」に位置づけます。
- 近隣の佐原2丁目公園は、年間を通じて利用率が高いことから、この整備は、サッカー競技者の課題である練習場所の確保が解決し、サッカーに触れやすい環境の充実につながります。
- トップアスリートのプレーを身近に感じることで、スポーツにふれあう機会が増えます。さらに、横須賀市をホームタウンとする横浜F・マリノスと連携し、市民との交流の機会を設けることでスポーツに対する意識が向上するだけでなく、市民自らが運動する契機にもなり、健康で活力のある生活づくりにもつながります。
- また、鉄道駅からスムーズな歩行者動線を確保するため、JR久里浜駅から駅西エリアにアクセスする連絡橋等の整備を検討します。
- 鉄道駅から徒歩圏に位置した運動公園を整備することは、利用者層が広がるだけでなく、サッカーと商店街との連携にも波及するなど多くの効果が見込まれ、久里浜地区全体の活性化につながることから、スポーツを核としたまちづくりを推進します。

駅北ゾーン 平作川流域の自然の維持・向上を目指した自然交流拠点



【現状・課題】

- 駅北エリアの面積は約0.8haであり、鉄道駅から徒歩圏に位置した利便性の高い場所ですが、その多くは有効活用が図られていません。
- 平作川流域は「横須賀市みどりの基本計画」において、緑地環境の維持・向上を目指すとして位置づけています。

【方向性】

- 周辺における低層建築物の居住環境や平作川流域の緑地環境の維持・向上の観点から、平作川隣接地という環境を生かした土地利用とすることが望まれます。
- また「くりはまみんなの公園」の自然と自然交流拠点の位置づけを継承するため、駅北エリアを「自然交流ゾーン」に位置づけます。
- くりはま花の国やペリー公園等に続く自然豊かな拠点として整備することで久里浜の魅力をさらに発信し、地域の方々や来街者が自然を感じるまちを目指します。

駅前エリア 地域資源を生かし、生活利便性の向上を目指した「まちの玄関口」



【現状・課題】

- JR久里浜駅前と京急久里浜駅の間にある場所は、久里浜地区の玄関口として有効な土地利用がされておらず、JR久里浜駅と京急久里浜駅間に連続性が確保されていないため、にぎわいや活気に満ちた駅前空間となっていません。
- 交通広場やターミナルとしての機能はありますが、人が滞留するような広場はないため、久里浜地区の玄関口としてのにぎわいは感じられません。

【方向性】

JR久里浜駅前：複合ゾーン(商業・レクリエーション機能)

- 三浦半島への観光ルートとして横須賀線の利用が期待されていることから、観光客や来街者をJR久里浜駅まで誘導するため、また、地域住民にも資するため、商業・レクリエーション機能からなる「複合ゾーン」の導入を検討し、滞在型観光の機能を確保します。
- 三浦半島をめぐる観光客の滞在だけでなく、駅西エリアとJR久里浜駅をつなぐ連絡橋等の整備を検討することにより、スポーツ交流ゾーンの利用者による滞在も期待でき、地元商店街等の利用の増加にもつながります。

JR久里浜駅と京急久里浜駅の結節点：複合ゾーン(行政・医療・福祉機能)

- 誰もが利用しやすいJR久里浜駅と京急久里浜駅の結節点において、地域に不足している行政・医療・福祉機能からなる「複合ゾーン」の導入を検討し、各機能が連携することにより、地域に住まう若者から高齢者まで誰もが暮らしやすい生活環境の整備につなげます。
- また、各エリアへの接続の中心に位置することを生かし、このエリアを中心にJR久里浜駅や京急久里浜駅、スポーツ交流ゾーンなどの各ゾーンをつなぐ歩行者動線を確保し、歩いて暮らせるまちを目指します。

引込線エリア 滞在時間の延長を目指した歩行者空間の創出



【現状・課題】

- 引込線エリアの面積は約0.4haです。周辺は久里浜西口栄通り商店会や住宅地であるため、周辺環境に配慮した整備が望まれます。
- 佐原方面からJR久里浜駅や京急久里浜駅へのアクセスは、久里浜田浦線に限定されますが、八幡第一踏切で一時停止を要するため、スムーズにアクセスできません。

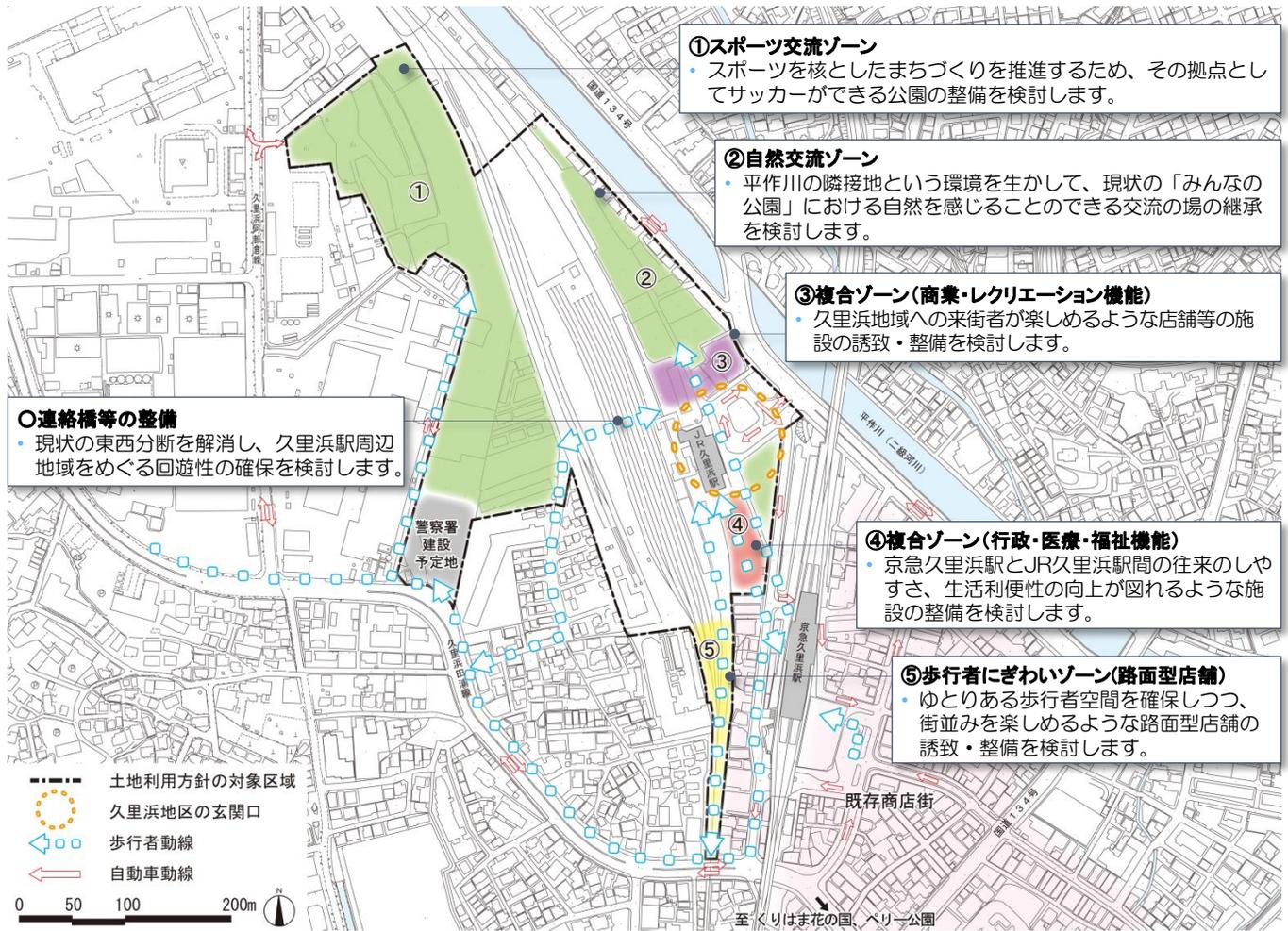
【方向性】

- 引込線エリアを「歩行者にぎわいゾーン」に位置づけ、安心して休憩できる空間を整備するとともに、周辺環境に配慮した路地型小規模店舗の誘致を検討します。
- 各エリアから流れる人や久里浜田浦線から各エリアへアクセスする歩行者空間の充実を図るため、歩行者専用道路とすることを検討します。

土地利用方針

地域資源を生かし、地域の方々と来街者がともに “交流・にぎわい・自然”を感じるまちづくり

拠点市街地である久里浜地区において、横須賀再興プランに掲げる「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」の実現に向け、地域の資源を生かした土地利用を図ることで、地域の方々の生活利便性を向上させるとともに、スポーツや自然を身近に感じられるような魅力を創造し、多くの来街者が交流できるようなまちづくりを目指します。



土地利用方針を実現することによる効果

- 現状の課題である久里浜地区の玄関口としての街並み景観やJR久里浜駅を挟む東西の分断を解決します。
- くりはま花の国やペリー公園などの既存の施設に加え、スポーツ交流や自然交流が図られる施設を整備するなど地域の魅力づくりをすることで、JR久里浜駅周辺地域に訪れる人（交流人口）の増加につながります。
- 久里浜地区の玄関口を中心にJR久里浜駅と京急久里浜駅をつなぐ軸、JR久里浜駅を挟む東西をつなぐ軸、JR久里浜駅周辺地域をめぐる軸をそれぞれ形成することにより、各ゾーンに訪れる人たちにとって便利で安心して歩けるまちとなります。
- 久里浜地区が「来たいまち、住みたいまち」に選ばれることで、持続可能な拠点市街地の形成につながります。

横須賀市都市部市街地整備推進課

〒238-8550 横須賀市小川町11番地 電話:046-822-8526 FAX:046-826-0420

平成30年5月発行

このパンフレットは1,000部作成し、1部あたりの印刷経費は67.0円です。